

会派代表質問

### 安心と安全を守り、魅力ある街づくりを目指して

公明党

引間 真理子 議員



**問** 5歳児健康診査の導入について今年度から、5歳児健康診査の普及に向け自治体に対する補助を強化しました。5歳前後は言語能力や社会性が高まる時期に当たり、言葉の遅れなどから、発達障がいの特性を認知しやすく、小学校の入学につなげるのに必要ではないかと思えます。

**答** 5歳児健康診査の導入に向けた人材の確保や、支援体制の整備など課題解決に向けて、先進自治体の事例研究や、近隣市町の動向を注視しながら、関係機関とも検討を進めてまいります。

**問** 高齢者の就労・社会参加の取組みについて、シルバー人材センターは、会員に働く機会を提供することを通じて、生きがいの充実や健康の維持、推進を図ることを目的としています。少しでもできることがあれば働きたいと思っている方もおられるようです。シルバー人材センターの現状と課題について、新規事業の開拓について伺います。

**答** 会員数は、令和7年4月時点で男性87名、女性23名合計110名が会員登録されています。主な業務としましては植木など低木の剪定や雑草の草刈り作業、市役所庁舎の清掃、駅前駐輪場の受付管理業務のほか、少数ではありますが市内事業所の事務作業などがあります。課題としては、市内に受け入れる企業が少なく、事務職を希望する者に対しての業務件数が少ないことや、草刈り業務は時期が重なるため従事する会員が不足していると同っております。

新規事業の開拓につきましては、工場内におけるライン仕分や清掃、スーパリーの品出し作業が新たに増え、今後も幅広い業種を扱えるよう推進

していきたいとのことでした。

**問** シルバー人材センターは2024年3月末、全国で1,309団体が設置され、多種多様な取組みを行っています。他市町村の取組みも参考にしたいと思えます。柏市では、関係機関と連携し高齢者の相談をワンストップで受け付ける「かしわ生涯現役窓口」を開設しました。就労だけではなくボランティアや生涯学習、健康づくりなど相手のニーズに合わせて情報を提供しており、何がその人に必要かアドバイスをすることで本人の気づきになる。本市でも参考にしたいと思えます。就労を通して地域のコミュニケーションとつながることは、健康面でプラスの効果があります。孤独、孤立にならず元気で社会参加できるように、商工会、社協など様々な団体と広く情報を共有し、取組むことが必要かと思えます。

**問** 女性職員の活躍の場の創出と育児休業取得、介護休暇の取組について伺います。

**答** 女性活躍推進をテーマとした外部研修への参加や市独自の研修の実施等を通じ、女性職員のキャリアアップ支援に取り組んでまいりたい。育児休業の取得状況は女性職員は100%、男性職員は令和4年度は40%、令和5年度は66.7%、令和6年度は60%と年々増加傾向です。

令和6年度中に介護休暇を取得した職員は1名、短期介護休暇を取得した職員は20名、制度の円滑な実施のため環境整備等に努めます。

その他、災害時に行政の業務支援、被災者支援の迅速な生活再建や負担軽減になる被災者支援システムの導入について伺いました。

### 関連質問

上代 和利 議員



**問** シニア向けのスマホ講座について

**答** シニア向けのスマホ教室は、令和4年度から令和5年度に、生活支援体制整備事業の一環として実施しています。令和6年度は老人クラブで、初心者向け講座と応用講座を実施、令和7年度も引き続き実施をします。高齢者の皆様の要望等を聞きながら、スマホ教室を開催していきたいと思えます。

**問** 自主防災組織と防災士のネットワークづくりについて

**答** 防災士とは「認定特定非営利活動法人日本防災士機構」が認証する民間資格で、認証を受けるには機構が決められたカリキュラムを受講し、資格取得試験に合格した後、所定の「救命救急講習」を受講し、認定登録申請を提出し、認定されます。他自治体では、市が管理している「登録防災士」として登録し、平時には各種防災訓練への協力や地区単位での自主防災組織研修会の講師として活動するほか、災害発生時は、避難所開設や避難所運営支援、災害ボランティアの活動支援等も行っています。

ご質問の防災士の資格を有する人数は把握はしていませんが、市としては防災士の登録制度や自主防災組織のネットワークについて市内の資格所有者の把握方法、本市の防災訓練への参加など、先進事例を調査研究してまいります。

他に避難所への女性職員の対応について、災害対策のドローン導入について、耳で聞くハザードマップの導入について、市民アンケート調査・中高生アンケート調査をうけて今後の対応について質問させていただきます。

### 関連質問

輪島 美津江 議員



**問** 熱中症対策について

**答** 熱中症を予防するためには、小まめな水分補給や適切なエアコンの使用が重要となります。高齢になると気温の変化や喉の渇きなどの感覚が鈍くなり、室内においてエアコンが設置されているにもかかわらず、使用せずに熱中症を発症している場合があります。このようなことから、6月の広報紙及び市ホームページにおいて地域包括支援センターだより、元気に夏を乗り切ろうとして、高齢者の熱中症予防対策として、適切なエアコンの使用や小まめな水分補給などについて周知、掲載しているところですので。あわせて、高齢者を対象とした運動教室や各種講座開催の折にも啓発を行い、高齢者の熱中症予防に取組んでまいります。

次に、見守り、声かけの実施につきまして、協定を締結している民間事業者が日常業務において異変を察した場合の支援の通報、連絡など、連携体制として見守り、声かけ活動に取組んでいただいております。

このほか、民生委員の方々が在宅介護支援センター職員が訪問などにより見守りを行っています。啓発チラシなども活用しながら熱中症予防について積極的な声かけを行っていただくよう改めてお願いし、注意喚起に努めてまいりたいと考えております。

※その他、小中学校での暑さ指数計の使用や熱中症警戒アラート発表時の具体的な対応について質問をしました。



個人質問

### 道の駅建設ありきの市の姿勢も基本構想の中身も疑問だらけ

黒須 俊隆 議員



**問** 道の駅検討委員会の基本構想の中身を見ると、ほとんど具体性がない。座長と副座長以外は余りしゃべらないお粗末な諮問委員会だ。道の駅という数億円、十数億円の箱物事業に失敗は許されない。

**問** 「人口減少」や「少子化」「高齢化」の区別もつかずにどうやって関係人口、交流人口の拡大を図り、移住定住につなげるのか。

**答** 白里地域の活性化の起爆剤として、白里海岸における交流人口の増加など観光振興の面で、その課題解決を重点に取組むことを念頭に、整備の可否を含め調査検討してまいります。

**問** 「農水産業の担い手不足の課題に対しブランド創造、6次産業化で若い世代の就農・就労の場の創出と担い手不足解消につなげる」とある。金坂市長が14年間でできなかったブランド創造をどうやって進めるのか。

**答** 道の駅で全ての課題を直接的に解決することは難しい。

**問** 「日用品などの販売で地域住民の利便性の向上につなげる」とあるが、都合よくできるのか。

**答** コンビニやスーパーの代替施設とすることは考えていません。

**問** 日用品が並んでいる写真が掲載されているが、どこの道の駅か。

**答** 写真はイメージで、道の駅で撮影された写真ではございません。

**問** 「防災拠点として安心・安全を支える」とあるが、道の駅こそが災害の心配にならないか。

**答** 防災面での役割は、情報発信などソフト面を想定しています。

**問** 他に「通年型観光への転換、情報発信、多世代交流、子どもの遊び場・居場所、健康寿命の延伸、地域

の歴史や文化の継承」と、10項目の必要性・課題があるが、優先度は？

**答** 観光面での課題解決に重点的に取組みます。

**問** 中身は決まっていないのに「九十九里浜のゲートウェイとなる道の駅、大網白里の海から始まる」とキャッチコピーだけできている。

**答** 目指すべき道の駅の理想像を示したもので、キャッチコピーとは性質が異なるものです。

**問** 国土交通省は、これからの道の駅は第3ステージだと言っているが、「道の駅を目的とする」という今回の構想では第2ステージの内容ではないのか。

**答** 白里地域のかつてのにぎわいが白里海岸の海水浴客を中心としてもたらされていたことを踏まえ、白里海岸自体の魅力向上に取り組み、市内外から白里地域を訪れる来遊客を増やすことで、地域の活性化や新たなビジネスチャンスの創出などにつなげてまいりたい。

**問** アンケートやパブリックコメントが無視されている理由は。

**答** アンケート調査やパブリックコメントでいただいたご意見やご心配を踏まえ、本年度に行う民間活力導入可能性調査の中で調査し、公表したいと考えています。

**問** 赤字続きでも運営者は撤退しないのか。

**答** 民間活力導入可能性調査の中で、民間事業者の独立採算による運営の可能性や、その持続可能性について調査してまいります。

道路や排水、インフラ部分を民間企業がやるわけではない。民間ならうまくいくというのは疑問だ。